

## 揖斐農林事務所の普及活動状況 令和4年12月28日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■担い手 農福連携揖斐地域連携会議の開催

11月29日に、令和4年度農福連携揖斐地域連携会議を開催した。雨天のため予定していた揖斐特別支援学校の実習ほ場の視察は中止となったが、会議の中で担当教諭から説明を受けた他、管内の農福連携の取り組み状況について情報を共有した。

また、県の農福連携アクションプランとマッチング事例の説明や農業者へのアンケート結果報告を行い関係者で農福連携について理解を深めた。

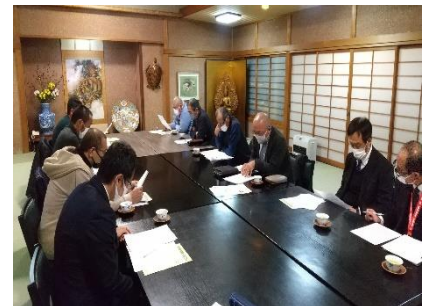


【推進会議の様子】

#### ■指導農業士 地区交流会開催

12月13日に、令和4年度揖斐地区指導農業士会交流会を3年ぶりに開催した。

今回は、出席者全員が行政に対して、経営や地域の状況などについて、日頃思っていることや肥料・燃料等の高騰対策、経営への影響、有機農業の推進など意見交換することができた。また、指導農業士としての役割や意識を確認することができた。



【交流会の様子】

#### ■担い手 第4回アスパラガス帰農塾開講

12月17日に今年度第4回の講義が開催され、今回は6名が出席した。農業普及課よりアスパラガスの休眠・刈取・土づくり等について説明を行った後、池田町の栽培農家において、コンロ用ガス缶を活用した病害虫対策の表面焼却の実習を行った。終了後、全講義に出席した4名に主催者から修了証が手渡された。

農業普及課では、今後も帰農塾を支援し、新規就農者の育成と産地拡大を進めていく。



【表面焼却を行う受講生】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■坂内龍神米 反省会の開催

12月15日に本年産の坂内龍神米の生産結果について反省会が開催され、農業普及課から生育状況および実証ほの結果について説明を行った。昨年は8月の天候不順の影響で、坂内龍神米の基準「1等かつ食味値84以上」をクリアするものはゼロとなったが、今年は70%以上が基準をクリアした。

また、昨年からマイクロプラスチックの出ない肥料の試験を行い、食味を損なうことなく安定生産できる結果が得られたことから、来年度の栽培暦に採用し、環境に配慮した米作りに取り組んでいくことが決定された。



【反省会の様子】

## ■かき 袋掛け富有柿の出荷が始まる

大野町かき振興会では、8月に「富有」に袋掛けを行い、樹上で成熟した高糖度、着色が進んだ袋掛け富有柿の出荷が12月12日から18日まで行われた。

その中から生産者が厳選して持ち込んだものをさらに大きさ（350g以上）、糖度（18度以上）、着色（CC7以上）、外観（秀品並）の品質基準で厳選し、クリアした柿は岐阜県ブランドの「果宝柿」として出荷、それに準ずる品質の柿は、大野町の独自ブランド「紅富有」として出荷された。今年は大玉傾向で着色遅れの影響もあったが、昨年より15%多い出荷となった。



【選別の様子】

## ■茶 普及活動セミナー

12月22日に農業技術センターにおいて、令和4年度普及活動研究セミナーが開催され、5農林事務所と1JAが活動成果を発表した。揖斐農林事務所からは「岐路に立つ茶産地 ～頑張る産地の取り組み～」として、平成21年から始まった（農）桂茶生産組合におけるGAPと荒茶輸出についての取り組みを発表した。

会場では県全域の普及指導員や関係機関の職員約40名が参集し、また、WEBでも各農林事務所がサテライト会場となり、20名以上が聴講し、発表に対して活発な質疑応答が行われた。

農業普及課は今後も揖斐地域の活動成果等を他地域にPRするため発信を行っていく。



【発表の様子】

## ■いちご いちご目揃え会の開催

揖斐地域は11月11日からいちごの出荷が始まり、12月に入り、出荷が本格化してきた。

12月9日、12日、15日に各地区で全農岐阜や市場、町を招いて目揃え会が開催された。目揃え会では、市場から現在の荷で問題なしと評価をいただいた上で、出荷規格の厳守、着色の進みによる過熟や傷みなどへの注意喚起があり、生産者同士でしっかり確認を行った。

今年は積雪予報もあるため、農業普及課から、冬期の草勢維持や病害虫対策等について情報提供を行った。今後も、いちごの長期安定出荷に向けた支援を行う。



【市場担当者と目を揃える】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■金ごま 反省会及び有機プロジェクトチーム会議

11月24日に本年産の金ごまの生産結果について反省会が開催され、農業普及課から生育状況および実証ほの結果について説明を行い、実需者からは、個別の生産量および品質結果について示された。

全体収量、単収とも前年結果を上回る結果となり、来年の生産に向けて成績のよかった生産者の栽培管理方法について活発な情報交換が行われた。

また、反省会終了後に有機農業推進プロジェクトチーム会議を開催し、今後の生産の課題について検討を行った。



【反省会の様子】